



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2024年
No.8
事例2

疑義照会・処方医への情報提供

同効薬の重複



事例

【事例の詳細】

患者は医療機関で6ヶ月に1回ブラリア皮下注60mgシリンジを投与され、処方されたデノスチュアブル配合錠を毎日服用していた。ブラリア皮下注60mgシリンジの投与が終了し、今回、エディロールカプセル0.75 μ gが初めて処方された。薬剤師は患者に残薬を確認し、デノスチュアブル配合錠が残っていることを聴取した。処方医からデノスチュアブル配合錠の服用中止の指示がなかったため、患者はデノスチュアブル配合錠とエディロールカプセル0.75 μ gの両方を服用すると思い込んでいた。薬剤師が処方医に2剤の併用について疑義照会した結果、デノスチュアブル配合錠の服用が終了した後にエディロールカプセル0.75 μ gの服用を開始するよう指示があり、デノスチュアブル配合錠の残数を考慮した処方日数に変更になった。

【推定される要因】

処方医は、デノスチュアブル配合錠が残っていることを把握していなかった可能性がある。

【薬局での取り組み】

ブラリア皮下注60mgシリンジの投与開始時や終了時には、ビタミンD製剤やカルシウム製剤の処方・服用状況を確認する。薬剤服用歴等に治療計画を入力し、薬剤師間で情報を共有する。



その他の情報

デノスチュアブル配合錠の添付文書 2023年4月改訂（第1版）（一部抜粋）

3.組成・性状

3.1 組成

有効成分	1錠中：沈降炭酸カルシウム（日局）762.5mg（カルシウムとして305mg） コレカルシフェロール（日局）0.005mg（200IU） 炭酸マグネシウム（日局）59.2mg（マグネシウムとして15mg）
------	--

10.相互作用

10.2 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ビタミンD及びその誘導体 アルファカルシドール、カルシトリオール、 エルデカルシトール等	高カルシウム血症があらわれることがある。	相加作用

エディロールカプセル0.5 μ g/0.75 μ gの添付文書 2024年2月改訂（第4版）（一部抜粋）

3.組成・性状

3.1 組成

有効成分 1カプセル中 エルデカルシトール0.5 μ g/0.75 μ g



事例のポイント

- 本事例は、活性型ビタミンD₃製剤が処方された際、天然型ビタミンD₃を含むデノスチュアブル配合錠の残薬があることを把握した薬剤師が処方医に情報提供し、同効薬の重複を避けることができた事例である。
 - 患者が継続して服用している薬剤が変更・中止になった際、薬剤師は、薬剤の成分、処方目的、変更・中止の理由、今まで服用していた薬剤の残薬数を把握したうえで、残薬がある場合はいつまで服用するのかなどを処方医に確認し、処方医の意図に沿った指導を行う必要がある。
 - デノスチュアブル配合錠は、ブラリア皮下注60mgシリンジなどのRANKL阻害薬の投与に伴う低カルシウム血症の治療および予防のため処方される薬剤である。ブラリア皮下注60mgシリンジの投与中止後、デノスチュアブル配合錠の補充継続期間については明確な基準は示されておらず、個々の患者の血清補正カルシウム値等を考慮し、最終的には医師の判断により決定される。薬剤師は経過を観察し、服薬フォローアップを行うことが重要である。
- <参考>「ブラリア投与中止後、デノラス（カルシウムとビタミンD）の補充はいつまで続ければよいですか？」
第一三共MedicalCommunity医療関係者向けサイト（参照2024年7月1日）



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhcr.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。